



(出 石)

兵庫・但馬国府推定地

- 1 所在地 兵庫県城崎郡日高町水上・松岡
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)九月～一九八七年一月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 吉識雅仁・甲斐昭光
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 平安時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

但馬国府は『日本後紀』延暦二三年正月壬寅(二六日)の条に「遷二但馬国治於気多郡高田郷」とあることから、移転されたことが窺える。国府の推定地として合せて七カ所の説が唱えられており、調査地はその一つである。国道のバイパス工事が計画され、昨年度確認調査を実施したところ、深田地区で木簡三点を含む、多量の遺物が出土したため、本年度全面調査を

行った。

調査区は、円山川左岸の沖積地に位置し、微高地と、それに挟まれた低湿地にまたがっている。付近には奈良時代から平安時代の遺跡が多く知られており、調査区の南西約六〇〇mには国分僧寺、北西約五〇〇mには国分尼寺が存在する。また東一〇〇mには川岸遺跡が存在する。

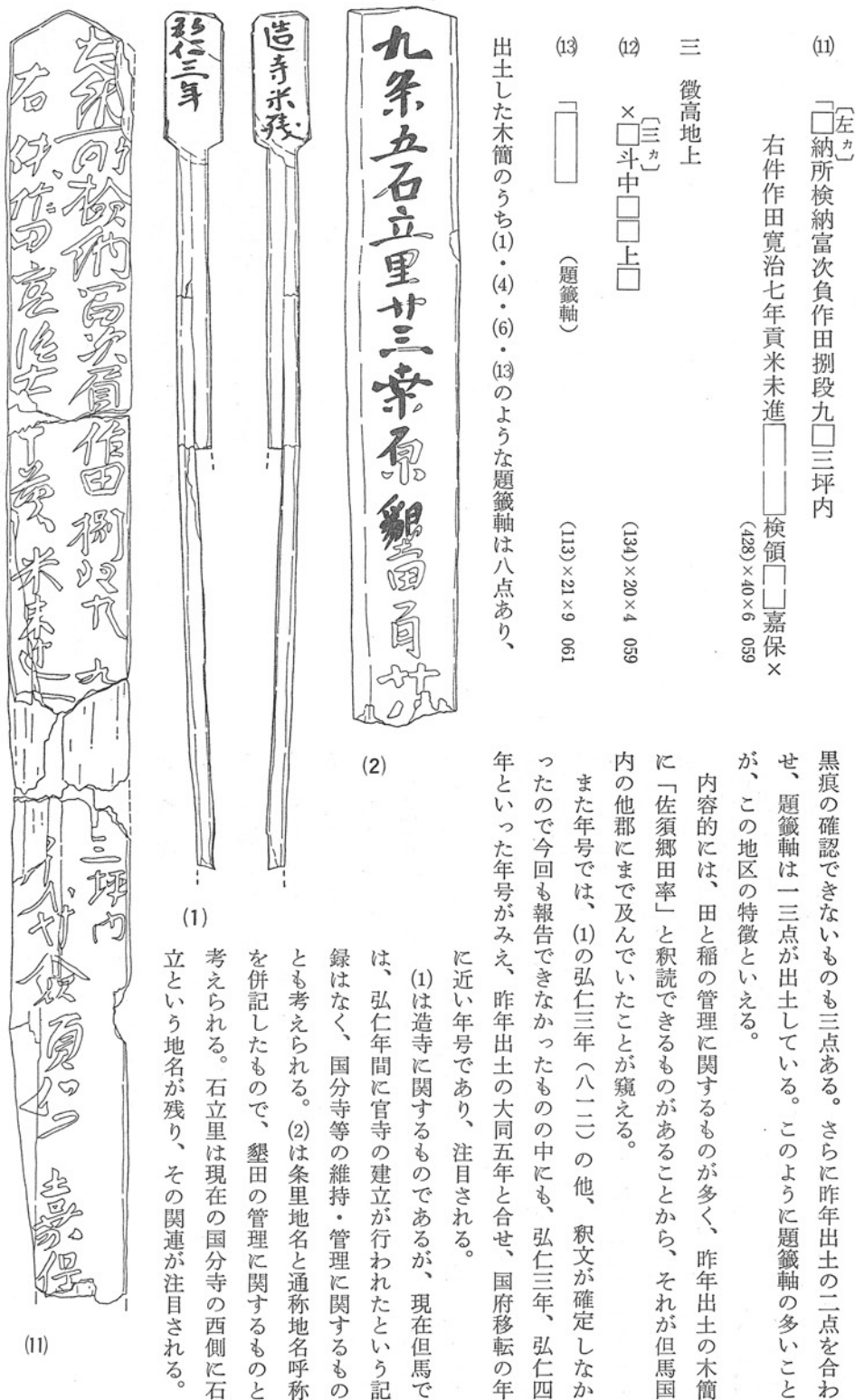
調査区の東半と西端が微高地であり、調査区中央では、北に開いた沼状の凹地が検出された。木簡は調査区東端の微高地を形成する熔岩礫直上から二点、凹地から二八点の計三〇点が出土した。微高地の上部や縁辺の整地層上から、九世紀前半から一一世紀後半にかけての遺構が検出された。しかし遺構は少なく、柱穴、井戸、溝、土壇等が検出されたにすぎない。その中で微高地の縁辺で検出された柱穴は、単独であり、付近の沼状凹地内から木製模造品が多く出土しており、関連が注目される。

凹地の内部からは、木簡の他に、木履(二三点)、人形・馬形・鳥形等の木製模造品、曲物・挽物・箱・斎串・檜扇など、木製品約三五〇点、須恵器・土師器の坏類、硯類、灰釉・緑釉陶器・黒色土器などの土器類、帯金具等の金属製品が出土している。また「桑」「井」「国当」「福」「東成」「養父」などの墨書土器も多量に出土している。

凹地内の堆積土は下から、黒灰色シルト、灰色シルトであるが、

(1) 「造寺米残

灰色シルト



この木簡は気多郡内の条里復原に、大きな意味を持つものと考えられる。

(7)・(8)・(10)・(11)は墨が剥落し、墨痕が浮き上っている。(11)は記載内容・性格など注目されるものである。

釈読は奈良国立文化財研究所寺崎保広氏の御教示による。

6 関係文献

木簡学会『木簡研究』第八号 (一九八六年)

(吉識雅仁・甲斐昭光)

兵庫・初田館跡

- 1 所在地 兵庫県多紀郡丹南町初田
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)九月～一九八七年二月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 岡崎正雄・山田清朝・山上雅弘
- 5 遺跡の種類 集落跡・館跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代後期、平安時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(篠山)

初田館跡は、JR線篠山口駅より南東約1kmの武庫川と篠山川との分水界のある田松川と新田松川に挟まれた、標高約一九六mの自然堤防上に位置する。周辺には大沢城・高仙寺城等の中世山城が多く点在する。日本道路公団が近畿自動車道舞鶴線を建設するのに伴い、発掘調査が行われた。初田は中世の犬甘保、後の酒井庄の内にあり、初田館跡については、寛政六年